

## 2023年度事業計画

(2023年4月1日から2024年3月31日まで)

### 1. 基本方針

2023年度、公益社団法人大阪フィルハーモニー協会は前身である関西交響楽団創設から76年目を迎えます。

新年度も当協会は、大阪フィルハーモニー交響楽団の運営を中心に、交響管弦楽その他音楽の普及振興を図るとともに、青少年層の音楽鑑賞・演奏に関する指導を行い、永年活動を続けてきた大阪を代表するオーケストラとして、わが国の文化芸術の振興、大阪を中心とした地域活性化に貢献することを事業の基本方針といたします。

また、当協会が保有する大阪フィルハーモニー会館は、市民の音楽活動の拠点として貸与する事業を通じて、地域の音楽文化の普及・振興に貢献するとともに、会館施設の一部を一般に賃貸する収益事業の再開を模索して、交響楽団運営等の公益事業の費用充実に寄与させたいと考えております。

これらの事業推進にあたりましては、長期化する新型コロナウイルス感染症の拡大防止策を徹底しながら、コロナ禍で縮小を余儀なくされた公演数、公演入場者数、各種会員数、及び会館利用者数等の回復、開拓に鋭意取り組み、財政的にも安定した協会運営を目指してまいります。

楽団運営は、6年目に入る尾高忠明音楽監督の下、定期演奏会をはじめ様々な自主演奏会を通じて、芸術性の高い曲目を採り上げ、持ち味であるダイナミックな演奏に加え、緻密なアンサンブル能力を兼ね備えた新たな「大フィル・サウンド」作りを目指すとともに、日常の業務運営におきましては、引き続き公益社団法人として求められる内部統治(ガバナンス)の充実強化、法令遵守の徹底、情報の保存・管理と適正な公開、リスク管理の強化等にも努めてまいります。

### 2. 事業基盤の維持・拡大に向けた2023年度の展開

引き続き、次の3本の重点課題を柱に、事業基盤の再構築と拡大を進めてまいります。

## (1)自立に向けた収益基盤の再構築

尾高監督の就任以来、主要レパートリーのブラッシュ・アップを目的に、これまでベートーヴェン、ブラームス、チャイコフスキー、ドヴォルザークの作品に焦点を当てたシリーズや、フランス音楽の名曲セレクション等に取り組んでまいりましたが、2023年度はメンデルスゾーン・チクルスを開催いたします。自主公演は40公演となる見込みで、文化庁学校巡回公演や企業等からの依頼公演は、小編成の室内楽公演や大阪クラシック公演を除き、年間56公演を見込み、合計の年間公演数は、98公演の計画となっております。

1. 自主公演（40公演）		
公演名	会場	公演数
定期演奏会	フェスティバルホール	20
東京定期演奏会	サントリーホール	1
メンデルスゾーン・チクルス	ザ・シンフォニーホール	4
マチネ・シンフォニー Vol.29・30	ザ・シンフォニーホール	2
ソフレ・シンフォニー Vol.21・22	ザ・シンフォニーホール	2
親子のためのオーケストラ体験教室	大阪フィルハーモニー会館	4
神戸特別演奏会	神戸国際会館こくさいホール	1
ドラゴンクエスト・コンサート	びわ湖ホール	1
3大交響曲の夕べ	フェスティバルホール	1
京都特別演奏会	京都コンサートホール	1
第9シンフォニーの夕べ	フェスティバルホール	2
新春名曲コンサート	フェスティバルホール	1
2. 依頼公演（58公演）		
企業・団体・学校・ホール等からの依頼公演		56 公演
大阪クラシック(有料・オーケストラ公演)		2 公演

定期演奏会は演奏技術と音楽性に磨きをかけ、コアなクラシックファンをはじめ、幅広い音楽ファンに対して弊楽団の実力をアピールするシリーズとなっています。2023年度も古典から近現代まで幅広い作品に挑戦し、尾高監督の下、世界レベルのオーケストラを目指して、伝統の「大フィル・サウンド」を更に進化／深化させていきたいと考えております。

共演アーティストも、シャルル・デュトワ、ハインツ・ホリガー、エリアフ・インバルといった世界的指揮者を再招聘する一方、小林海都(ピアノ)、上野通明(チェロ)、

岡本誠司(ヴァイオリン)といった日本期待の若手アーティストも起用し、幅広い観客層に音楽の素晴らしさをお届けできると考えております。

また東京定期演奏会では、大阪フィルの代名詞とも言えるブルックナーの交響曲から「第6番」を取り上げ、進化をつづける「尾高&大フィル」の実力をしっかりとアピールしてまいります。

また、「名曲シリーズ」の一環として開催しております「マチネ・シンフォニー」では、来年末で指揮活動の引退を表明しております井上道義による、得意のショスタコーヴィチをメインとしたプログラムを演奏する他、「ソワレ・シンフォニー」「3大交響曲の夕べ」「新春名曲コンサート」では、初めて管弦楽に接する方が「オーケストラって楽しい、面白い」と興味を抱くことのできる作品を提供いたします。尚、2017年度から取り組んでおりますゲーム音楽シリーズ「ドラゴンクエスト・コンサート」につきましても、ゴールデンウィークにびわ湖ホールで開催し、クラシックファンのみならず、新しいファン層開拓に繋がるコンサートにしてまいりたいと考えております。

以上の通り自主演奏会をより充実させることによってファン層の拡大を図るとともに、期中においても依頼公演の受注に努力し収益基盤の再構築を図ってまいります。

会費収入の増収に向けては、2015年度より設置したパトロネージュ推進室のアドバイザーならびにアンバサダーに効果的に活動いただいている他、法人会員についてはコロナ禍の厳しい環境の下で様々なご協力を頂きながら、新規の会員獲得活動を続けてまいります。また、寄付金につきましては、遺贈案件等の捕捉はもちろんのこと、演奏会での寄付金募集チラシの折り込み等を通じた地道な努力を続け、ご支援の輪を広げてまいりたいと考えております。

## (2)オーケストラの体制整備

2024年3月まで契約期間を延長した3代目音楽監督の尾高忠明マエストロには引き続き公演の企画や演奏面に関する指導・助言の役割を委嘱し、大阪フィルの演奏活動全般を総括していただいております。

楽団員の体制については、2023年2月末現在61名のところ、引き続きオーディションによりトップレベルの優秀な人材の確保に努めてまいります。

コンサートマスターにつきましては、ソロ・コンサートマスターの崔文洙氏と、コンサートマスターの須山暢大氏の2名と契約を継続いたします。

### (3)大阪の都市魅力の向上に資する社会貢献活動の推進

過去 17回の開催により、大阪の秋の風物詩として、また 5 万人規模の音楽の祭典として定着してきた「大阪クラシック」は、昨年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、座席指定の有料公演と動画配信に加え無料公演を事前予約制で一部再開する等して開催いたしました。

大阪の都市魅力戦略の重点エリアでもある「御堂筋」「中之島」の活性化に資するものでもあり、今年度も 9 月に、在阪オーケストラ・吹奏楽団等と共同で多くの方々に音楽を楽しんでいただけるスタイルで開催すべく、実行委員会において協議・調整を行ってまいり所存です。

また、次世代層に対するクラシック音楽普及の観点では、定期演奏会においてフェスティバルホールの 3 階席を学生席として 25 歳以下の学生向けに 1,000 円という極めて安価にて提供しております。2017 年度からは、学生席の有効活用を図るため、小学生等のお子様親子と一緒に公演を聴くことができる「親子チケット」の発売も開始。2018 年度には、「学生定期会員」制度を創設し、同会員の学生の皆さまには定期演奏会以外の自主公演の割引制度等を利用していただけるようにいたしました。

さらに、社会貢献活動の一環として、海外から大阪府内へ留学されている外国人留学生や様々な施設の皆さまを定期演奏会に無料ご招待する活動も行っており、2023 年度についても継続実施してまいります。

### 3. 大阪フィルハーモニー会館の運営

弊協会が保有する大阪フィルハーモニー会館のメインホール(600 m<sup>2</sup>)・市民スタジオ(90 m<sup>2</sup>1室、40 m<sup>2</sup>2 室)を、今年度も、市民の音楽活動や文化活動の拠点として貸与する事業を行うことによって地域の音楽普及・文化振興に貢献してまいります。

新型コロナウイルス感染症拡大防止策を徹底するとともに自治体のガイドラインに即した運営を通じて、地域の皆さまに安全で安心してご利用いただける施設として稼働率の向上にも努めてまいりたいと考えております。

なお、竣工後 30 年が経過する大阪フィルハーモニー会館建物については、公益法人の今後の活動基盤の健全化のため必要に応じて修繕等の検討を続けてまいります。

#### 4. 2023 年度に取り組むべきその他の重要課題

上記の他、外部との連携による事業拡大の重要性が高まっており、次のような項目を重要課題として取り組んでまいります。

##### (1)外部企業・団体との連携による公演来場者の増加とファンづくり

これまでも会員企業の福利厚生部門を通じて社内サイト等に社員向け公演情報の掲載を依頼し、来場者の増加を推進してまいりましたが、引き続き 2023 年度も、更なる提携対象の拡大、内容の充実を図り新たなファンづくりに取り組む計画です。

また、企業のCSR活動やSDGsへの参画を通じて、社会貢献並びに来場者確保も積極的に進めてまいります。

##### (2)「2025 大阪・関西万博」への取り組み

長年大阪で演奏活動を続けて来たオーケストラ(芸術団体)として、地元大阪で開催される「2025 大阪・関西万博」の成功に向けて、他の在阪オーケストラ(4オケ)と協力して「広報・プロモーション」活動への参加を計画いたしております。

以上

2023年度収支予算書（正味財産増減計算書総括表）  
（2023年4月1日～2024年3月31日）

（単位：円）

	2023年度予算	2022年度予算	増減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	192,200,000	195,200,000	▲ 3,000,000
正会員受取会費	173,000,000	176,000,000	▲ 3,000,000
賛助会員受取会費	19,200,000	19,200,000	0
事業収益	524,154,000	509,817,000	▲ 14,337,000
公債収益	248,286,000	264,900,000	▲ 16,614,000
広告料収益	40,000,000	45,000,000	▲ 5,000,000
入場料収益	199,650,000	179,402,000	▲ 20,248,000
使用料収益	12,000,000	8,000,000	▲ 4,000,000
その他事業収益	24,218,000	12,515,000	▲ 11,703,000
受取補助金等	140,550,000	89,050,000	▲ 51,500,000
公的補助金収入	140,550,000	89,050,000	▲ 51,500,000
寄附金収入	41,000,000	41,000,000	0
一般寄附金収入	41,000,000	41,000,000	0
雑収益	2,000,000	2,000,000	0
雑収益	2,000,000	2,000,000	0
経常収益計	899,904,000	837,067,000	▲ 62,837,000
(2) 経常費用			
事業費	949,569,305	911,485,695	▲ 38,083,610
役員報酬	1,193,400	1,193,400	0
給料手当	351,955,325	353,897,100	▲ 1,941,775
賞与	5,367,000	0	▲ 5,367,000
法定福利費	56,842,500	56,770,000	▲ 72,499
旅費交通費	67,236,730	52,420,695	▲ 14,816,035
出張費	200,957,000	185,261,000	▲ 15,696,000
音楽費	7,285,000	7,515,000	▲ 230,000
文芸費	3,196,000	2,375,000	▲ 821,000
謝礼金	2,069,000	1,440,000	▲ 629,000
会費	77,316,000	70,110,000	▲ 7,206,000
楽器運搬費	8,446,000	8,701,000	▲ 255,000
外注費	5,000,000	5,000,000	0
宣伝費	8,606,000	5,634,000	▲ 2,972,000
印刷製本費	18,433,000	16,380,000	▲ 2,053,000
支払手数料	11,689,000	11,066,000	▲ 623,000
消耗品費	2,541,750	2,460,370	▲ 81,380
修繕費	6,178,000	4,139,000	▲ 2,039,000
賃借料	2,108,410	2,252,146	▲ 143,736
保険料	1,047,800	948,782	▲ 99,018
交際費	972,000	1,134,000	▲ 162,000
通信運搬費	3,822,639	3,802,206	▲ 20,433
光熱水費	9,396,175	7,522,350	▲ 1,873,825
委託費	7,681,234	7,075,792	▲ 605,442
減価償却費	23,615,480	23,638,870	▲ 23,390
雑費	23,883,833	19,889,838	▲ 3,993,995
租税公課	32,601,669	31,715,084	▲ 886,585
修繕引当金繰入額	4,678,000	4,678,000	0
賞与引当金繰入額	0	5,105,880	▲ 5,105,880
退職給付費用	5,450,360	19,360,181	▲ 13,909,821
管理費	12,857,705	12,165,631	▲ 692,074
役員報酬	795,600	795,600	0
給料手当	2,248,675	2,088,900	▲ 159,775
賞与	33,000	0	▲ 33,000
法定福利費	357,500	329,999	▲ 27,501
旅費交通費	1,288,270	966,305	▲ 321,965
通信運搬費	347,361	367,794	▲ 20,433
印刷製本費	0	0	0
支払手数料	0	0	0
消耗品費	208,250	189,630	▲ 18,620
修繕費	322,000	161,000	▲ 161,000
賃借料	191,590	217,854	▲ 26,264
保険料	32,200	22,218	▲ 9,982
交際費	108,000	126,000	▲ 18,000
支払利息	1,000,000	1,000,000	0
光熱水費	853,825	727,650	▲ 126,175
委託費	700,766	766,208	▲ 65,442
減価償却費	1,625,520	1,627,130	▲ 1,610
雑費	2,082,167	1,800,162	▲ 282,005
租税公課	552,631	594,416	▲ 41,785
修繕引当金繰入額	322,000	322,000	0
賞与引当金繰入額	0	94,120	▲ 94,120
退職給付費用	▲ 211,650	▲ 31,355	▲ 180,295
経常費用計	962,427,010	923,651,326	▲ 38,775,684
当期経常増減額	▲ 62,523,010	▲ 86,584,326	▲ 24,061,316
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	▲ 62,523,010	▲ 86,584,326	▲ 24,061,316
一般正味財産期首残高	457,634,722	540,381,089	▲ 82,746,367
一般正味財産期末残高	395,111,712	453,796,763	▲ 58,685,051
II. 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III. 正味財産期末残高	395,111,712	453,796,763	▲ 58,685,051

（注1）一般正味財産期首残高に関して、2023年度予算は2022年度決算見込み値を、2022年度予算は2021年度決算値を使用

（注2）短期借入限度枠は300百万円とする

2023年度 収支予算書 内訳表 (正味財産増減計算書 内訳表)  
(2023年4月1日 ~ 2024年3月31日)

2023年3月7日

(単位:円)

	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合計
I. 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
受取会費	192,200,000	0	0	192,200,000
正会員受取会費	173,000,000	0	0	173,000,000
賛助会員受取会費	19,200,000	0	0	19,200,000
事業収益	524,154,000	0	0	524,154,000
公演料収益	248,286,000	0	0	248,286,000
広告料収益	40,000,000	0	0	40,000,000
入場料収益	199,650,000	0	0	199,650,000
使用料収益	12,000,000	0	0	12,000,000
その他事業収益	24,218,000	0	0	24,218,000
受取補助金等	140,550,000	0	0	140,550,000
公的補助金収入	140,550,000	0	0	140,550,000
寄附金収入	26,000,000	0	15,000,000	41,000,000
一般寄付金収入	26,000,000	0	15,000,000	41,000,000
雑収益	2,000,000	0	0	2,000,000
雑収益	2,000,000	0	0	2,000,000
経常収益計	884,904,000	0	15,000,000	899,904,000
(2) 経常費用				
事業費	948,078,986	1,490,319	0	949,569,305
役員報酬	1,193,400			1,193,400
給料手当	351,934,882	20,443		351,955,325
賞与	5,366,700	300		5,367,000
法定福利費	56,839,250	3,250		56,842,500
旅費交通費	67,229,877	6,853		67,236,730
出演費	200,957,000			200,957,000
音楽費	7,285,000			7,285,000
文芸費	3,196,000			3,196,000
諸謝金	2,069,000			2,069,000
会場費	77,316,000			77,316,000
楽器運搬費	8,446,000			8,446,000
外注費	5,000,000			5,000,000
宣伝費	8,606,000			8,606,000
印刷製本費	18,433,000			18,433,000
支払手数料	11,689,000			11,689,000
消耗品費	2,540,250	1,500		2,541,750
修繕費	6,003,500	174,500		6,178,000
賃借料	2,107,030	1,380		2,108,410
保険料	1,030,350	17,450		1,047,800
交際費	972,000			972,000
通信運搬費	3,820,137	2,502		3,822,639
光熱水料費	9,390,025	6,150		9,396,175
委託費	7,495,160	186,074		7,681,234
減価償却費	22,734,569	880,911		23,615,480
雑費	23,868,835	14,998		23,883,833
租税公課	32,601,669			32,601,669
修繕引当金繰入額	4,503,500	174,500		4,678,000
賞与引当金繰入額				0
退職給付費用	5,450,852	▲ 492		5,450,360
管理費	0	0	12,857,705	12,857,705
役員報酬			795,600	795,600
給料手当			2,248,675	2,248,675
賞与			33,000	33,000
法定福利費			357,500	357,500
旅費交通費			1,288,270	1,288,270
通信運搬費			347,361	347,361
印刷製本費			0	0
支払手数料			0	0
消耗品費			208,250	208,250
修繕費			322,000	322,000
賃借料			191,590	191,590
保険料			32,200	32,200
交際費			108,000	108,000
支払利息			1,000,000	1,000,000
光熱水料費			853,825	853,825
委託費			700,766	700,766
減価償却費			1,625,520	1,625,520
雑費			2,082,167	2,082,167
租税公課			552,631	552,631
修繕引当金繰入額			322,000	322,000
賞与引当金繰入額			0	0
退職給付費用			▲ 211,650	▲ 211,650
経常費用計	948,078,986	1,490,319	12,857,705	962,427,010
当期経常増減額	▲ 63,174,986	▲ 1,490,319	2,142,295	▲ 62,523,010
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減	▲ 63,174,986	▲ 1,490,319	2,142,295	▲ 62,523,010
他会計振替額			0	0
当期一般正味財産増減額	▲ 63,174,986	▲ 1,490,319	2,142,295	▲ 62,523,010
一般正味財産期首残高	342,172,631	10,995,986	104,466,105	457,634,722
一般正味財産期末残高	278,997,645	9,505,667	106,608,400	395,111,712
II. 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0
III. 正味財産期末残高	278,997,645	9,505,667	106,608,400	395,111,712